

鈴木金融担当大臣開会挨拶

IAIS（保険監督者国際機構）年次コンファレンス

令和5年11月9日

皆様、こんにちは。金融担当大臣の鈴木俊一です。この度は、日本で初めての開催となるIAIS（保険監督者国際機構）年次コンファレンスにホスト国として多くの皆様をお迎えすることができたことを大変喜ばしく思っています。

皆様もご存じのように、日本の保険市場は世界有数の規模を持ち、生命保険、損害保険の双方において、国民生活や企業の経済活動の根底を支える必要不可欠なインフラとしての役割を果たしています。日本の保険会社は400兆円以上の資産を有し、債券市場・株式市場における極めて重要なプレーヤーでもあります。また、近年は日本の保険会社による海外への展開も進んでおり、海外の保険市場、金融市場との結び付きも一層強いものになってきています。

先ほどの岸田総理のご挨拶にもありましたが、保険市場を含む日本の金融セクターは、気候変動問題、デジタル化の進展、人口減少・少子高齢化、地政学的リスクの増大など、構造的な環境変化に直面しています。こうした中で、金融庁では、金融システムの安定・

信頼を確保しつつ、社会課題解決と経済成長を両立させる金融システムを構築するべく、様々な取り組みを行っています。

保険セクターについて申し上げます、金融庁としては、保険会社に対して法令順守や契約者保護をしっかりと求めつつ、先ほど述べたような様々な環境変化を踏まえながら、様々な角度からモニタリングを行っています。

さて、本日の年次コンファレンスは、IAISにおいて検討されている、保険をめぐる様々な規制・監督上のトピックについて、民間の参加者の方々も交えて闊達な議論を行う場であると承知しております。

このような会合を、この度日本で初めて開催することとなったのは、誠に時宜を得たことであると考えております。なぜならば、先ほど申し上げた日本の金融セクター、保険セクターをめぐる課題や環境変化の多くは、まさに本日ご列席の皆様も直面しているものであり、また年次コンファレンスの議題とも大いに通じるものだからです。

規制・監督当局、保険会社を始め、保険に関わるステークホルダーの皆様が一同に会する今回の場において、様々な地域や役割に基づく知見を持ち寄り、共通の課題に立ち向かうために議論を深めていただくことを期待しています。ホストである金融庁として

も、そうした議論に積極的に貢献するとともに、ご参加の皆様から大いに学ばせていただければと考えております。

ご清聴ありがとうございました。